

Oracle8 Server for Sun Solaris Intel リリース・ノート

リリース 8.0.6

ORACLE®

Oracle8 Server for Sun Solaris Intel リリース・ノート リリース 8.0.6

部品番号: J01167 - 01

2000 年 5 月

原本名: Oracle8 Release Note for Intel UNIX (DG/UX Intel , NCR MP-RAS , SCO UnixWare , Solaris Intel) Release 8.0.6

原本部品番: A73221 - 01

Copyright (C) 1999, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラムの使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当ソフトウェア（プログラム）のリバース・エンジニアリングは禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

*オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Legend が適用されます。

Restricted Rights Legend

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication and disclosure of the Programs shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-14, Rights in Data – General, including Alternate III (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

1 使用上の注意	1-1
リリース 8.0.6.0.0 製品セット	1-2
アップグレードおよびダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則	1-4
サポートする OS バージョン	1-5
Installer について前バージョンとの変更点	1-5
Default Install と Custom Install について	1-5
製品選択の階層について	1-5
Oracle インストール前の設定作業	1-6
インストレーションについての注意事項	1-7
README.FIRST ファイル	1-7
製品の制限事項および既知の障害	1-7
Precompiler について	1-7
Migration Utility	1-7
Net8 OpenAPI のサポートについて	1-8
英語オンラインドキュメントの扱いについて	1-8
エクスポートのメッセージについて	1-8

使用上の注意

本リリースノートはOracle8 Server リリース 8.0.6.0.0 製品セットを特に日本語環境で使用するにあたっての注意事項について解説しています。

『Oracle8 for Intel UNIX (DG/UX Intel, NCR MP-RAS, SCO UnixWare, Solaris Intel) インストール・ガイド リリース 8.0.6』と合わせてご利用ください。

また、製品メディア中の rdbms/doc/README.doc ファイルを必ずお読みください。

次の事項に関し説明します。

- リリース 8.0.6.0.0 製品セット
- アップグレード及びダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則
- サポートする OS バージョン
- Installer について前バージョンとの変更点
- Oracle インストール前の設定作業
- インストールについての注意事項
- 製品の制限事項および既知の障害

リリース 8.0.6.0.0 製品セット

製品

Oracle Unix Installer	4.0.3.0.0
Oracle On-Line Text Viewer	1.0.1.0.0
SQL*Plus	8.0.6.0.0
Intel UNIX Documentation	8.0.6.0
Net8	8.0.6.0.0
Net8 Protocol Adapters	8.0.6.0.0
TCP/IP Protocol Adapter	8.0.6.0.0
SPX/IPX Protocol Adapter	8.0.6.0.0*5)
Oracle Advanced Networking Option	8.0.6.0.0*5)
Security and Single Sign-On	8.0.6.0.0*5)
Net8 External Naming Adapters	8.0.6.0.0
Migration Utility: Oracle7 to Oracle8	8.0.6.0.0
PL/SQL	8.0.6.0.0
Oracle8 Enterprise(RDBMS)	8.0.6.0.0
Oracle Intelligent Agent	8.0.6.0.0
Oracle8 JDBC Drivers	8.0.6.0.0
JDBC Thin Driver	8.0.6.0.0
JDBC OCI Driver	8.0.6.0.0
Object Type Translator	8.0.6.0.0
Oracle Cartridges	8.0.6.0.0
Oracle ConText Cartridge	2.4.6.0.0
Oracle8 Visual Information Retrieval(VIR) Cartridge	8.0.6.0.0*1)
Oracle8 Spatial Cartridge	8.0.6.0.0
Oracle8 Image Cartridge	8.0.6.0.0
Oracle8 Time Series Cartridge	8.0.6.0.0*1)
Oracle Options	8.0.6.0.0
Oracle8 Objects Option	8.0.6.0.0
Oracle8 Partitioning Option	8.0.6.0.0
Precompilers	8.0.6.0.0
Pro*C/C++	8.0.6.0.0
Oracle Names	8.0.6.0.0*3)
ORACLE NLS Libraries and Utilities	8.0.6.0.0*4)
ORACLE Core Libraries	8.0.6.0.0*4)
Oracle Server Manager	3.0.6.0.0*2)
Oracle Trace	4.0.0*4)

備考

コンポーネントは、製品メディアに含まれる製品コンポーネントの一覧を記載したもので、製品ライセンスとは対応していません。

*1) 日本ではサポートされません。

*2) Oracle8 Enterprise(RDBMS)と同時にインストールされます。

*3) Net8 と同時にインストールされます。

- *4) インストレーション時に選択できるものではありません。
- *5) 対応する Network ソフトが導入されている必要があります。

アップグレードおよびダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則

Oracle8 リリース 8.0.6 では、アップグレードおよびダウングレード・スクリプトのネーミング規則が新しくなっています。

スクリプト名には、CAT*.SQL 形式を使用しません。新しいネーミング規則のスクリプトを使用すると、あるリリースから別のリリースへ直接移行することができます。

アップグレード用のスクリプトには U*.SQL 形式、ダウングレード用のスクリプトには D*.SQL 形式の名前が付いています。

次の 2 つの表に、アップグレード用およびダウングレード用の新しいスクリプト名を示します。

8.0.6 へアップグレードする対象	実行するスクリプト
8.0.3	U0800030.SQL
8.0.4	U0800040.SQL
8.0.5	U0800050.SQL

8.0.6 からダウングレードする対象	実行するスクリプト
8.0.3	D0800030.SQL
8.0.4	D0800040.SQL
8.0.5	D0800050.SQL

サポートする OS バージョン

対応 OS は、Solaris 7 です。

オペレーション・システムとパッチ・レベルの要件については、『Oracle8 for Intel UNIX (DG/UX Intel, NCR MP-RAS, SCO UnixWare, Solaris Intel) インストール・ガイド リリース 8.0.6』の第 1 章を参照してください。

Installer について前バージョンとの変更点

Oracle8 リリース 8.0 の Installer は、以前のバージョンのものと比較してユーザー・インタフェースが変更されています。以下に Oracle8 リリース 8.0 の Installer で変更された箇所を説明します。

Default Install と Custom Install について

日本語のメッセージをインストールしたり、US7ASCII 以外のデータベース・キャラクター・セットを使用するためには、「Install Type」画面にて「Custom Install」を選択してください。

製品選択の階層について

インストールする製品の選択が階層表示になりました。（製品名の左にあるプラス記号 (+) によって示されています。）

例えば Pro* シリーズプリコンパイラの各製品をインストールするには、まず「Precompiler」をダブルクリック（キャラクター・モードでは、「リターン」）し、その後「Pro*C」など個々の製品を選択してください。

「Precompiler」のみを選択しても、Pro*C など各製品はインストールされません。

Oracle インストール前の設定作業

1. 現在の Oracle Installer は日本語環境では使用できません。日本語環境にインストールする場合、あらかじめ環境変数 `NLS_LANG` を設定解除してください。

【実行例（Cシェルの場合）】

```
% echo $NLS_LANG
Japanese_Japan.JA16EUC
% unsetenv NLS_LANG
```

【実行例（BシェルおよびKシェルの場合）】

```
$ echo "$NLS_LANG"
Japanese_Japan.JA16EUC
$ NLS_LANG=American_America.US7ASCII; export NLS_LANG
```

2. 環境変数 `LANG` を設定していると再リンク時にエラーになることがありますので、あらかじめ環境変数 `LANG` を設定解除してください。

【実行例（Cシェルの場合）】

```
% echo $LANG
japanese
% unsetenv LANG
```

【実行例（BシェルおよびKシェルの場合）】

```
$ echo "$LANG"
japanese
$ LANG=C; export LANG
```

インストールについての注意事項

Oracle をインストールする上で、既知の障害および注意事項について以下に説明します。

README.FIRST ファイル

このファイルには、リリース 8.0.6 の最新情報および制限事項が記述されています。Oracle Installer を起動すると、このファイルが表示されます。注意してお読みください。

製品の制限事項および既知の障害

既知の障害および制限事項については、各製品ごとの doc ディレクトリ下のオンライン README ファイルを必ずお読みください。

オンライン README ファイルに記載以外の日本語環境での既知の障害および制限事項について以下に記述します。

Precompiler について

製品の demo プログラムおよびファイルは参考用です。そのままでは動作しないものがあります。

製品のソフトウェア要件の詳細については、『Oracle8 for Intel UNIX (DG/UX Intel, NCR MP-RAS, SCO UnixWare, Solaris Intel) インストール・ガイド リリース 8.0.6』を参照してください。

なお、サポート対象となるコンパイラのバージョンに関しては、コンパイラの提供ベンダーが上位互換を保証している場合は、下位バージョンのコンパイラに対して Precompiler がサポートしている範囲において、上位バージョンのコンパイラについてもサポート対象とします。

コンパイラの互換性については、コンパイラの提供ベンダーもしくはご購入元にお問い合わせください。

Migration Utility

- Migration Utility にて移行できる Oracle7 Server のリリースは 7.1.6、7.2.3、7.3.3、7.3.4 です。

但し、レプリケーション環境を使用しているデータベース（読み出し専用スナップショットを除く）を移行する場合、必ず Oracle7 リリース 7.3.3 以上（リリース 7.3.4 を推奨）に移行してから、Oracle8 への移行を行ってください。

- データベース・キャラクタ・セットと NLS_LANG 環境変数のキャラクタ・セットが一致していないとデータベースを正常に移行できません。必ず同一のキャラクタ・セットを設定していることを確認してから Migration Utility を起動してください。
- Migration Utility を起動するには、Oracle Installer からとコマンドラインからの 2 通りの方法がありますが、US7ASCII 以外のキャラクタ・セットのデータベースに対しては、Oracle Installer から起動すると正常に動作しません。Migration Utility はコマンドラインから起動してください。

Net8 OpenAPI のサポートについて

Net8 OpenAPI はサポート対象外です。

英語オンラインドキュメントの扱いについて

CD 媒体上の英語のドキュメントと同一のドキュメントが日本語で提供されている場合は、日本語版を参照してください。

エクスポートのメッセージについて

以下のような日本語メッセージの表示に不具合があります。

「”xxx”」には、文字列が挿入されます。

エラー番号	誤	正
EXP-00214	表領域”xxx”をエクスポートしています	表”xxx”をエクスポートしています